

<p>【技術の名称】 近接開孔基礎梁工法 ー大開孔と中開孔が近接するー R C基礎梁の補強工法ー</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第15-04号 性能証明発効日：2015年6月26日</p> <p>【取得者】 近接開孔梁研究会 (代表会社：株式会社銭高組)</p>
--	---

【技術の概要】

本技術は、建築物の基礎梁において、人通孔および設備開孔等の複数の開孔を近接して設けることができる技術である（開孔のうち、人通孔となる大きい方を“大開孔”、隣接する設備開孔となる小さい方を“中開孔”と称する）。本技術では、大開孔および中開孔には補強金物（ダイヤレンまたはダイヤレン NS）を配筋し、孔周囲あばら筋や開孔部上下補強筋、孔上下の水平補強筋等を配筋することで、従来の開孔梁に対し同等の剛性を有し、各限界状態における安全性を確保していることである。

【技術開発の趣旨】

建築物の基礎梁は、人通孔をはじめ電気、給排水の設備用配管を通すための開孔を多数設ける場合が多い。その開孔の補強においては、配筋の容易さから既製の開孔補強金物を使用する場合が多い。その際、開孔の中心間隔は双方の開孔径平均の3倍以上とすることが定められているが、本技術は開孔どうしを従来工法よりも近接して設けることを意図して開発されたものである。

【性能証明の内容】

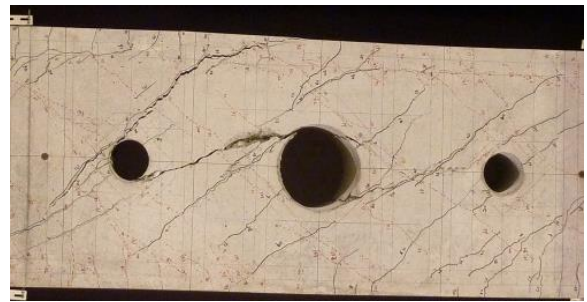
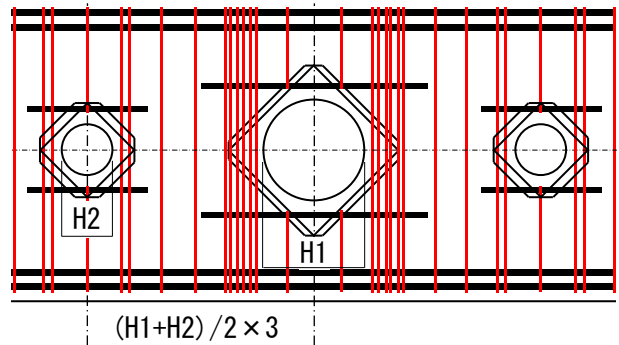
本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「近接開孔基礎梁工法 設計施工指針」に従って設計施工された基礎梁は、同指針で定める使用限界時（長期荷重時）に使用上の支障が生じず、損傷限界時（短期荷重時）に修復性を損なう損傷が生じない。また安全限界時（極めて稀な地震時）に所要の終局強度を有する。

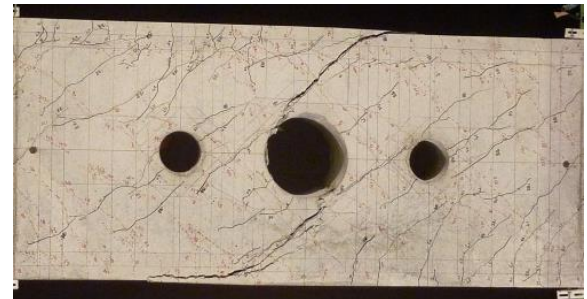
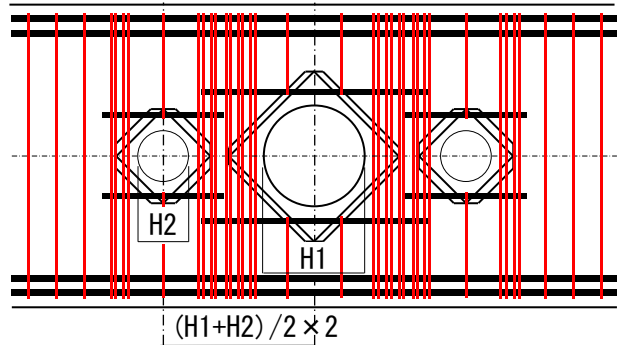
○近接開孔梁研究会

- 青木あすなろ建設(株)、(株)浅沼組、(株)奥村組、
- (株)熊谷組、(株)鴻池組、(株)銭高組、
- 東亜建設工業(株)、飛島建設(株)、
- (株)長谷工コーポレーション、(株)ピーエス三菱、
- 三井住友建設(株)、コーリョー建販(株)

従来仕様



近接開孔基礎梁工法



従来工法との最大耐力時破壊性状の比較

【本技術の問合せ先】

株式会社銭高組 担当者：五十嵐治人
 〒102-8678 東京都千代田区一番町 31

E-mail：igarashi_haruhito@zenitaka.co.jp
 TEL：03-5210-2440 FAX：03-5210-2462